

第7回北海道新幹線倶知安駅周辺整備推進委員会 開催報告

1. 日時

2022年4月27日（水）10:00～11:30

2. 場所

倶知安町役場 2階会議室



3. 報告事項

（1）第3回インバウンド観光勉強会の開催結果について … 資料1

（北海道運輸局 門間課長補佐）

- ・資料1について説明。

（木村委員長）

- ・回数を重ねるにつれて事例を学べるいい機会になったように思う。シンポジウムについても、新幹線が来るまでの経緯や進捗状況等について、町民や周辺エリアに向けての発信という意味で非常に効果があったように思う。

（本田副委員長）

- ・あんなに多くの人に参加すると思っていたいなかった。具体的な事例や勉強会ができたことは地元として感謝している。
- ・シンポジウムについても、町民向けに発信力があるものだったと思っており、羊蹄山麓の首町との情報共有の場にもなったので良かった。シンポジウムに参加した町民からは、新幹線の検討が身近に感じられ、自分達でも何かできることがないかという発言もあった。
- ・今、東口や西口にフォーカスして議論しているが、もう一度改めて、将来的な地域のあり方や高速ネットワークの使い方等の全体像を振り返ることが出来たことは、良い機会であったように思う。

（鉄道・運輸機構 松谷課長補佐）

- ・シンポジウムに対して各方面から好評であったという声を聞いている。この機運や勢いを消さないよう、みんなで協力しながら進めていきたいと、鉄道・運輸機構内部でも話している。引き続き、協力頂きたい。

(北海道運輸局 門間課長補佐)

- ・運輸局としても好評頂いていることに感謝していることと、Youtube を通じて、なるべく多くの方々や町民に見ていただくことが重要かと思っている。

(木村委員長)

- ・後で見られる時代になってきたので、そういう活用も良いかと思う。

(2) くとさんパークのあり方検討部会の検討結果について … 資料2

(倶知安町 植田係長)

- ・資料2について説明。

(木村委員長)

- ・全体の空気感や意見等、部会に参加されていた柏谷委員からもう少しリアルな意見を伺いたい。

(柏谷委員)

- ・転車台をどうするかというよりかは、今までの鉄道に関わる倶知安駅の鉄道が果たしてきた役割について、新幹線開業を契機に、しっかりと後世に伝えていくべきではないかという話にウエイトが置かれていた気がした。
- ・現物があるという価値は大きいはずなのに、現時点までの間、現物をそもそも活かすしかなかった。現物がますます劣化していく今後のことを考えると、「残す」「残さない」の議論以上に、上記に述べたような鉄路が果たしてきた歴史や意味を伝えることが大事ではないかと、白熱していた印象。
- ・参考資料をみると、撤去等の金額に対する議論がなされたように見えるかもしれないが、維持費等の金額を調達する以上に、歴史・文化や価値を伝承できるよう長い年月と労力をかけて取り組もうと熱い議論がされていた。

(佐藤委員)

- ・高校時代、高校の前を鉄道が走っており、もくもくと黒い煙をみながら育った。国鉄は倶知安町の成り立ちには欠かせないと思う。
- ・鉄道の賑わいを記録として、どうやって後世の子ども達に伝えていけるかと思っている。
- ・新幹線整備に伴い歴史が薄れていくようにも思っており、VR 等で子ども達が実体験できるようなやり方が出来ると一番いいように思う。
- ・転車台のことを知っている人は今いないように思う。既存の形で残すというよりかは、なんらかの形で残ればいいと思う。

(木村委員長)

- ・道内の鉄道のまちの保存方法等をみるのも良いかもしれない。

(窪田委員)

- ・現物を残すことにこだわらず、記録として残す方向性に賛同している。
- ・記録と記憶だけでは切り離されることが多いので、今ある空間と想起できるような仕組みがあるといいと思う。転車台がなくても、デザイン的なもので空間に記憶を認識させるものを残せると、農業と鉄道の歴史を子どもたちに想像してもらえるように思った。

(木村委員長)

- ・最新技術の活用や想起させるような工夫もあると良いという意見が出た。
- ・部会を継いで、本委員会での議論を進めていきたい。

4. 議事

(1) 北海道新幹線倶知安駅の整備に関する要望書(案)について… 資料3

(倶知安町 西村主事)

- ・資料3について説明。

(木村委員長)

- ・要望書の議論は足掛け3年になり、大分イメージに近づいてきたように思う。

(柏谷委員)

- ・前回委員会で窪田委員が提示してくれたロッジの写真を入れてはどうか。

(木村先生)

- ・P. 4にいらしてはどうか。

(本田副委員長)

- ・柏谷さんと同じ意見。ロッジの写真は、P. 9の世界的なリゾート地の部分に入れてはどうか。インバウンド客がニセコエリアや羊蹄の自然を少し感じられるような、少し高級な待合所のイメージとして入れてはどうか。

(ドーコン 朝倉)

- ・資料のおさまりの都合から各項目6枚の写真を掲載したいと考えており、掲載できていなかった。著作権の都合上、現物を撮りに行った上で要望書に反映したい。

(木村委員長)

- ・実際の駅で、このホテルのような写真がないか。

(鉄道・運輸機構 松谷課長補佐)

- ・ないように思う。

(木村委員長)

- ・P. 9の下にロッジの写真を入れる方向性として。
- ・他のテーマについて、いかがか。
- ・P. 7の金沢駅の写真がわかりにくいように思う。

(本田副委員長)

- ・鉄道の歴史を残すという意味で金沢駅の写真は必要かと思うが、確かにわかりにくい。
- ・設計を行う鉄道・運輸機構が理解できていればいいのではないか。

(鉄道運輸機構 松谷課長補佐)

- ・我々が整備しているのももちろん把握している。委員の方々がわかっており、イメージと合っているのであれば、このままで構わない。

(吉田委員)

- ・P. 9のチューリッヒ国際空港の写真は、すのこ部分が見せたいのだったか。木を活用している部分を見せたいのか。

(ドーコン 朝倉)

- ・木の利用という部分と世界的な玄関口のイメージを伝える為にこの写真を選んだ。

(峠ヶ委員)

- ・全体のクオリティが上がったが故、金沢駅の写真が目立つ。

(本田副委員長)

- ・写真を拡大してはどうか。

(峠ヶ委員)

- ・P. 5 の冬の写真は、実際には非常に良い景色なので、もう少し現状を伝えられるような良い写真があるような気がする。

(本田副委員長)

- ・P. 2 の写真をまた掲載するのもありではないか。

(倶知安町 西口主幹)

- ・観光協会や観光課で持っている写真をもう一度確認してみたい。

(木村委員長)

- ・P. 8 の周辺景観と調和した駅について、今あるような倶知安駅周辺の景観だけではなく、自然の中にある駅もしくは調和している駅のような事例写真もあったほうがいいのか。

(ドーコン 朝倉)

- ・J Rや鉄道・運輸機構から参考となる場所があれば、教えていただきたい。

(J R北海道 野澤主幹)

- ・旭川駅は忠別川の河川空間に隣接しており、駅前には花畑になっているので良いかもしれない。

(木村委員長)

- ・写真はお持ちではないか。

(J R北海道 野澤主幹)

- ・個人的には持っていない。

(本田副委員長)

- ・要望書の検討の初期段階で提案してもらった資料に、使えそうな写真があったように思う。

(木村委員長)

- ・写真の話は尽きないので、内容について他に意見はあるか。

(鉄道・運輸機構 松谷課長補佐)

- ・P. 7 の地域や伝統文化について、倶知安町の歴史や風土として代表的なものがあれば教えていただきたい。

(佐藤委員)

- ・聞かれても思い出せない。山と川しか思いつかない。

(柏谷委員)

- ・スキーの町 50 年というのは倶知安らしいのでは。

(峠ヶ委員)

- ・移住前から倶知安と言えばスキーと思っていたので、スキーではないか。

(本田副委員長)

- ・農業もあるが、スキーと鉄道が倶知安らしいのでは。

(鉄道・運輸機構 松谷課長補佐)

- ・今後、町との議論になるが、知恵を頂けたらと思っている。

(木村委員長)

- ・飯山もそうだが、スキーの町の駅も参考になるかもしれない。

(吉田委員)

- ・野沢温泉にスキー博物館があったように思う。そこでは、道具等を展示している。

(峠ヶ委員)

- ・うろ覚えだが、全日空を乗った時に「翼の王国」という冊子で、ヤブキさんがスキー板を持っている大きな写真が掲載されていた。

(柏谷委員)

- ・渡辺洋一さん(＝町内の写真家)が、一時期、レルヒ中佐を追って写真を撮っていた。その時に色々とまとめた写真があるように思う。

(木村委員長)

- ・話をする中で、埋もれている歴史が出てきそう。
- ・今回の議論を書き留めていただき、他の時に議論できるようにしてほしい。

5. その他

(J R北海道 野澤主幹)

- ・西口には弊社の鉄道施設がある。昨年秋に、新幹線工事の支障となることから屋根付きのホームを新設している。他に、車庫と流雪溝がある。新幹線開業後、これらの施設は基本的に鉄道事業で使用しないため、敷地内に残ることとなる。西口の議論の際、これら施設の利活用も含めて検討していただけたらと思っている。当然、撤去という選択肢もあるが、新しい施設であるため、利活用も含めて検討いただけたらと思っている。

(木村委員長)

- ・歴史的な建物ではないので、転車台と違い重みはない。その点を含めて、議論する必要がある。

(吉田委員)

- ・売却は可能なのか？

(J R北海道 野澤主幹)

- ・色々と制約がある。J R北海道の資産を一定規模以上、売却(譲渡)する場合、国からの認可が必要となる。背景として国鉄から承継した資産であるため勝手に処分できない。また、鉄道施設として使用することを目的として整備した施設が、その目的外の使用となるため、国がどのように判断するのか慎重に確認しなくてはならない。

(木村委員長)

- ・J R北海道でホテルを建てるような噂を耳にしたが、いかがか。

(ＪＲ北海道 野澤主幹)

- ・開発については検討段階であり、決まっていない状況。まずは我々を含め、あらゆる開発者が開発したいと思えるような魅力的な街区が西口にできるよう議論していただけたらと思っている。
- ・高架下の空間が空いているので、高架下の空間とＪＲ北海道の敷地の空間を一体化する必要があるとは思っている。

(木村委員長)

- ・議論する前に、西口周辺エリアの現地確認をしたいと思う。

(本田副委員長)

- ・西口は東口と違い自由がきくので色々と意見がでるかと思うが、昨年度の東口に関する議論の反省を踏まえ、現状の動きを共有しながら検討を進めていきたい。その辺のキャッチボールを密にしながら検討を進めていきたい。

(倶知安町 西口主幹)

- ・今年度の委員会スケジュールについて説明。

(木村委員長)

- ・いよいよ西口の議論が次回からはじまるので、よろしくお願いします。
- ・全体を通して何かないか。

(佐藤委員)

- ・ＪＲ北海道から在来線と流雪溝が残るという話があったので、西口の議論の時にその箇所も図面に入れておいてもらいたい。

(柏谷委員)

- ・西口の議論を進める中で、道道の関わりが大きいと考えている。そこで商工会議所では、北海道・町・開発局と連携し、道道とその周辺の交通関連について、意見出しやデータ収集等を検討できるような協議会設置に向けた準備を進めている。

以 上